

令和7年度地域意見交換会 質疑応答 要旨

日付:令和7年10月20日(月) 場所:総合体育館 参加122人

No.	要望事項等 (要旨)	各課回答
1	樹木の道路へのはみ出しについて、市で指導を行ってほしい。市道へ50cm～1mはみ出して道路が狭くなっている。隣人や近所の方が注意すればいいが、感情的な問題になりやすく、なかなかできないため、市から注意・指導をしてほしい。 一度(7～8年前)回覧板で注意喚起をしていたが、それ以降注意喚起を見ていない。 市広報や防災無線、回覧板等を活用して注意喚起をお願いしたい。	(建設課) 樹木がはみ出している場所について、連絡をいただければ地権者に手紙を出し、伐採等の指導をしている。 また市広報等での注意喚起も検討する。
2	先ほどの市長と事務局からの説明で重複している箇所が多くあったので、もう少し説明を省略してほしい。	(企画政策課) 説明の仕方について、より簡潔に内容を伝えられるよう改善する。
3	市で実施している婚活パーティーについて、曜日が偏っていて参加できない。曜日を分散して開催していただきたい。	(市民生活課) 婚活パーティーは年7回実施しているが、参加者はお勤めの方が比較的多いため、土日に開催させていただいている経緯がある。会員の意見を聞きながら、開催について今後検討する。
4	スポーツや運動を一生懸命やっている人がいる中で、予算が削られてしまうとスポーツ等がしづらくなってしまう。 スポーツを通して横のつながりが構築されるだけでなく、縦のつながりができることで、懇親を深め色々な指導ができるようになると思う。そのためには、スポーツ等にかかるお金は必要だ。	(スポーツ振興課) 予算規模としては例年通りだが、物価高騰のなか限られた予算でどのように運営していくか試行錯誤している。 10/19(日)には「あさひスポーツフェスティバル2025」が開催された。様々なニュースポーツを体験し、小さなお子さんから高齢者まで様々な方が交流した。参加者は1906人で、昨年度の1739人から170人程増えていた。 今後もアンケート調査の結果等も参考にしながら、より良いスポーツ環境を整備していきたい。

令和7年度地域意見交換会 質疑応答 要旨

日付:令和7年10月20日(月) 場所:総合体育館 参加122人

No.	要望事項等 (要旨)	各課回答
5	農業従事者の減少対策として、若者の健康診断費用を市で助成してはどうか。一般企業に就職した若者は会社が費用負担し入社後すぐに健診を受けられるが、農業に従事する若者は、国民健康保険に加入しているため費用を自己負担して健診を受けている。これを助成すれば、農業に従事する若者も増えるのではないか。	(健康づくり課) 現在、市では国民健康保険に加入している35歳以上の方に対し、健康診断を実施している。35歳未満の方への助成は行っていない。健康診断の対象年齢の引き下げ等については、今後検討していきたい。
6	本日配布された総合戦略の概要版について、文字の大きさが小さく高齢者には見づらいと思う。高齢者でも読みやすいようにフォントを大きくし、わかりやすい言葉を使う等の工夫をしてほしい。	(企画政策課) 限られたスペースに対して情報量が多いため、現在の文字の大きさになってしまっている。今後は文字の大きさ等にも配慮して作成していく。
7	祭りで人との交流を取り戻したいと考えている。そこで、旭市七夕市民まつりの予算や規模は将来的に縮小傾向にあるのか、充実させていくのか教えてほしい。 祭りに対しての補助金の増額を望んでいる。	(商工観光課) 今年度は旭市20周年記念事業として補助金を増額したため、来年度は減少すると思う。運営を行っている七夕市民まつり実行委員会の方にも伝え、内容等についても工夫していきたい。

令和7年度地域意見交換会 質疑応答 要旨

日付:令和7年10月20日(月) 場所:総合体育館 参加122人

No.	要望事項等 (要旨)	各課回答
8	YouTube等を見ていて「千葉県で財政難の市町村」と言うと、大体銚子市、旭市、匝瑳市、鴨川市など外房沿いの地域が出てくる。 旭市は海沿いを整備すれば、観光客をより呼び込めるのではないかと。旭市はインバウンドへの対応も遅れている印象があるため、旭市の観光への取組と海岸の整備についてお聞きしたい。 また、観光の拠点として、道の駅の拡張等も市主導で可能なのか併せてお聞きしたい。 →(再意見)海岸沿いに栈橋をかけるとか、大きいプールを作る、ジェットスキーをできるようにする等を考えていた。	(商工観光課) 市として実施している取組はあるが、周知やPRが不足しているかも知れない。海沿いでは、矢指ヶ浦海水浴場や市民プールをオープンし、飯岡刑部岬展望館も観光スポットとなっているため、活用しながらイベント等を行っていききたい。また、今後インバウンド需要も考慮しつつ取組を検討していきたい。 (農水産課) 道の駅周辺は農業振興地域ということもあり、拡張が難しい。今年は道の駅開業10周年ということもあり、肉フェスやステージショー等実施したが、拡張が必要なほど混雑していない。高速道路の延伸の影響や現在の混み具合を考慮しても、今の規模が適正であると思う。 また、海岸の土地は県の管轄である。海岸の整備というのは具体的にどんなものをイメージしているか。 →(再意見)(農水産課)上記の取組については県の管轄のため、市からは回答できない。市では現在、ハマグリ等の一部を除いた水揚げ量が減少し活気が低下している、飯岡漁港周辺において「海業」を推進し、漁港周辺の活気を取り戻すべく取り組んでいる。
9	消防団について、人口が減少しているなかで団員の確保が難しくなっている。他自治体と比べても旭市はかなり手厚い方だと思うが、それでも次に交代する人を探すのも厳しい。また、消防車の維持費も課題であり、統合が必要なのではと思う。	(消防本部) 市でも消防団の再編をすでに検討している。現在769名いる消防団員を5年かけて550名まで削減し、分団も現在3個部あるものを2個部に減らす予定である。人口減少に対応し、継続できる組織体制を目指して、最終的には地域の方々と話し合いながら決めていきたい。
10	令和4年から令和5年にかけて出生数は増えているものの、旭市の人口減少は悲観的な状況である。人口の自然増減だけでなく、転入者等の積極的な受け入れが必要だと思う。 近隣には成田空港があり、機能強化に伴い移住者も増えていると思うので、市からNAAへ働きかけをしてはどうか。 例:東日本大震災の際、秋田県では福島県から転入してきた方に対して助成を行い、人口を獲得していた。	(企画政策課) 市としても成田空港機能強化に伴う波及効果の恩恵を受けられるよう、国・県、空港を交えた様々な要望をあげているところである。 また、人口の獲得については、市では移住・定住者向けに住宅取得奨励金を交付しているが、周知が不足していると思う。 今後こうした制度活用を積極的にPRし、移住・定住者を取り込みたい。

No.	要望事項等 (要旨)	各課回答
11	旭市もコンパクトシティ化を進めてみてはどうか。農地と居住地を分けることで、水道管などライフラインの設備更新の優先順位をつけやすくなると思う。市の存続のためには、20年～30年先を見据えて思い切った政策を打ち出すことも必要だと思う。	(都市整備課) コンパクトシティの先進事例としては富山県が有名である。確かに生活利便性の向上やインフラコストの削減・防災力の強化等の面でメリットはあるものの、デメリットももちろんある。具体的には①人口集中地域外の住民からの同意が得られないことや②生活拠点の移行に時間がかかる等があげられる。他自治体もなかなか実施できていないなかで、旭市がどこまでできるか検討していきたい。
12	継続的な収入源として、固定資産税は必要だと思う。ネットで旭市沖の海岸が洋上風力発電の「準備区域」に指定されたというニュースを見た。これを機に、財源となる電源交付金等も活用して、継続的に収入を得られる仕組みを作るべきである。	(環境課) 今回の「準備区域」への選定は第一段階であり、今後「有望区域」→「促進区域」と段階を経て、国が事業者を決定し事業化へと向かうことになる。今後、漁業関係者等の理解や、発電後のエネルギーをどう海上から陸上へ持っていき、提供するか等課題はあるものの、旭市に洋上風力発電がくれば固定資産税のみでなく、地域振興、産業振興に大きなインパクトとなる。長期的な話にはなるが、国・県と推進に向けて努力していきたい。
13	町内会・自治会のあり方について、市の考え方を教えていただきたい。自分も自ら手を挙げて区長になったわけではないが、昔から住んでいると順番にやるものだと思います。しかし新しく移住してきた人に役員をお願いすると、それなら町内会を抜けるという人もいる。このような状況のなか、町内会・自治会のあり方について、市としてどのように考えているのか。	(総務課) 現在、市内には行政区が約150存在しており、これらの自治組織は地域の親睦を深めるためには必要であると考え。人口減少やライフスタイルの多様化等により、住民と地域のつながりの希薄化や、役員の不足等は課題としてすでに認識しているところであるが、区は住民の自治組織の基本となるものなので、持続可能なものとなるよう、ご理解ご協力をいただきたい。
14	回覧板はいつまで回すのか。以前市役所に伺い同様の質問をしたところ、行政からのお知らせを広く市民へ知らせるために回しているとのことだった。しかし町内会に加入していないとそもそも回ってこないものが、本当に必要だろうか。今はネット等で自ら情報を取りに行く時代であり、デジタル弱者のために無くせないというのわかるが、いつまで必要だろうか。	(総務課) ホームページやSNS等で市の情報は発信しているものの、現時点では、インターネットを使って情報を受け取ることができない方のために、回覧板が必要であることをご理解いただきたい。

令和7年度地域意見交換会 質疑応答 要旨

日付:令和7年10月20日(月) 場所:総合体育館 参加122人

No.	要望事項等 (要旨)	各課回答
15	令和8年度の4月から、自転車で歩道を走行した場合罰金が科せられるようになると伺った。旭二中の周辺は自転車走行用に整備された道があるが、そこから離れたところで歩道を走行してしまったら罰金になるのか。	(市民生活課) 自転車の歩道走行に対して罰金の支払いを求める制度(＝青切符制度)について、現時点で市で把握はしていないため、所管している警察に確認していただきたい。 市で実施している交通安全の取組としては、自転車用ヘルメットの購入費用の助成等を行っている。
16	デジタル化に伴い、地域内のコミュニケーションが取りにくくなっているように感じる。たとえば転入してきた方に区長の名前や連絡先等を教えるのはどうか。人と話をすることでのコミュニケーションから防犯意識が生まれ、地域のつながりが増えるのではないか。横のひととのつながりがなければ、「ず～っと大好きなまち旭」にならないのではないか。 また、市役所においても、課長から市民に対して積極的に声かけをする等、話しやすい雰囲気、窓口を作ってほしいと思う。	(総務課) 市では転入者に対して、区の案内のリーフレットを配布している。区長の連絡先等を教えてほしいと要望があった際には、区長に確認をしたうえで教える。地域の祭り等に参加し、話をすることで地域のつながりや防災力の強化につながるため、つながりを大切にしていきたい。 また、市の窓口についても、にこやかな表情での対応を心がけたい。
17	地域意見交換会について、限られた時間のなかで全員の意見を聞くのは難しいため、事前に参加者から意見を募集しそれを共有してはどうだろうか。より多くの方から意見があがる分、意見も複雑化してくるだろうが、AIなども活用し、効率的に負担なく意見交換できる仕組みがあれば良いと思う。	(秘書広報課) 市長への手紙や各種SNS等で、市への意見は随時募集しているところである。実際にAIを活用して市への意見を募集している先進自治体もあるため、本市でも市民の皆様からより多くの意見をいただけるよう研究していきたい。